

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



やさしいがん治療に取り組んでいます
熊本医療センターは切らずに治す



【特集】

放射線治療科

- VOICE
- くまびょう TOPICS
- 医学シリーズ 血液内科
- いま、何が研究されているか 看護学校
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

特集

切らずに治す低侵襲がん治療 放射線治療科

- 当院は診療科が多いため、ほぼすべての領域の悪性疾患を扱っています。
- 外照射用リニアックは撮影機能も有しており、治療時と計画時の画像をモニター上で融合させ、僅かなずれも修正することができるため精度の高い治療が可能です(画像誘導放射線治療:IGRT)。
- すべての治療は治療計画装置にて計画し、作成された線量分布を検討後、実施しています。
- 強度変調放射線治療(IMRT)が開始予定です。

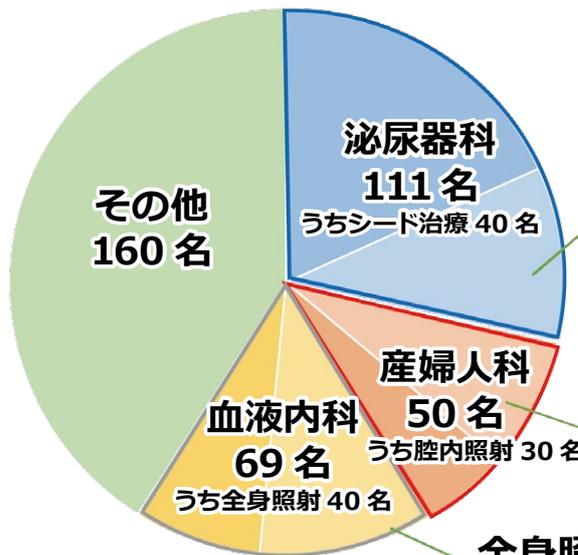
【放射線治療のメリット】

- がんに厳しく身体に優しい
- 外来通院でも可
- 働きながら治療できる
- 治療後早期退院
- 照射中の痛みがない

平成 29 年度 治療総数 390 名 (うち新患 330 名)

【その他内訳】

放射線科	89
腫瘍内科	31
外科	7
消化器内科	7
形成外科	6
呼吸器内科	5
耳鼻咽喉科	5
代謝内科	4
皮膚科	2
救急救命部	1
整形外科	1
歯科口腔外科	1
総合診療科	1



密封小線源治療

●シード治療(約40名)

子宮・腔がんを主とした腔内照射(ラルス治療)および前立腺がんに対する125Iシード永久挿入治療を行っています。婦人科、泌尿器科、麻酔科と連携し、精度の高い治療を心がけています。

●腔内照射(約30名)

全身照射(約40名)

造血幹細胞移植のための全身照射を行っており、症例数は県内では最大。

良性疾患であるケロイド切除後の術後照射やバセドウ眼症の球後照射も形成外科や糖尿病・内分泌内科と連携をとり、多くの症例を扱っています。

私たちがサポートします



医長
富高 悦司



医師
幸村 紘子



医師
大津家 裕仁



放射線治療専門
放射線技師
古田 真由美



がん放射線療法
看護認定看護師
大平 ちえみ



放射線治療セン
ター看護師
熊川 あゆみ

今後、密封小線源治療等について詳しくご紹介していく予定です。
がん患者さまがおられて、放射線治療はできるかな?と思われましたら、まず富高までご連絡下さい。



国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 TEL 096-353-6501 FAX 096-325-2519



医法)社団 魁正会
服部胃腸科
理事長・院長 櫻井 宏一



◆貴院のアピールをお願いします

当院は新町に位置する内視鏡医療に特化した消化器専門施設として年間2万件を超える内視鏡検査を行っており、NBIシステムやハイビジョン拡大内視鏡など最新の内視鏡機器を駆使し、食道、胃、大腸の早期がん発見に力を注いでいます。また、内視鏡治療においても、内視鏡的粘膜下層剥離術、大腸コールドポリペクトミーという新しい技術を積極的に導入し、内視鏡による診断から治療までを一貫して行う完結型の医療施設を目指し医療に取り組んでいます。

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

当院は上部内視鏡検査、下部内視鏡検査、ドッグ・検診を行っており、今年より毎月第2日曜日(月により変更の場合あり)を完全予約制で始めております。合併症や高齢などで内視鏡検査が厳しい患者さんには、消化管エコー(必要に応じて単純CTを追加)での診断を積極的に行っております。また大腸検査に抵抗を持たれている女性の方が多いため、大腸検査受診促進を目指し3人の女性医師が常勤しております。このような患者様がおられましたらご紹介いただければと思います。



◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

趣味は野球と映画鑑賞です。しかし野球は周囲にする人がいなく、また根っからの巨人ファンの私にとって、近年の巨人の弱さと地上波テレビの放映激減でヤフオクドームに行きソフトバンクを応援することが楽しみになっています。映画も子供が1歳と8歳でアニメ鑑賞になっています。

今まで心房細動で運動を控えていましたが、治療して主治医の許可がおりましたので、まずは新町から白川沿いに向かって散歩から始めようと思っています。

【診療科目】

消化器内科・内科

【診療時間】

月～金 8:30～13:00 15:00～17:00
土 8:30～13:00

【休診日】

土曜午後・日曜・祝祭日

【住所】

〒860-0004 熊本市中央区新町2丁目12番35号

【TEL】

096-325-2300

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者さまの御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者さまからの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊 健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693**

月～金(祝日を除く)AM 8:30～PM 17:00



「院内感染対策研修会」開催

5月14～18日

今回は、最近流行が問題となっている「麻疹」、院内感染対策マニュアルが策定された「重症熱性血小板減少症候



群」の2疾患と、「針刺し、血液体液曝露とその対策」を取り上げました。感染対策の知識をブラッシュアップして、日常診療に役立ててください。

感染制御室長・小児科部長

水上 智之

Tomoyuki Mizukami



「摂食嚥下特別講演」開催

5月26日



長谷 剛志 先生

5月26日18時半から研修センターにて、石川県の公立能登総合病院 歯科口腔外科部長、長谷剛志先生を講師にお迎えして、「高齢者の食を多角的に観る、診る、看る～食べる力の見える化と地域・職種間連携の構築」という演題で、150名(院内12名)を超える聴衆を迎え、2時間半の大変熱のこもった講演がおこなわれました。

歯科・口腔外科部長

中島 健

Takeshi Nakashima



INFORMATION

CT装置を更新しました

放射線

CT装置更新にて、5月21日よりSOMATOM Drive (SIEMENS 社製)が稼働しました。今回導入された装置では、従来のCT検査+αが多くあります。そのなかでも高速撮影・被ばく低減・Dual Energy撮影が特徴的です(一部制約あり)。



- ・高速撮影：息止めが困難な患者様でも、高速撮影モードの使用が広範囲で可能であり、動きのある部位においても精巧な画像取得が可能です。
- ・低被ばく：最新テクノロジーを組み合わせることにより、被ばく線量を抑えても、従来と同等の画質の担保が可能です。
- ・組成評価：Dual Energy撮影モードにて撮影し、専用ソフトにて解析することにより、尿管結石の組成評価や新鮮骨折の骨髄浮腫評価が可能です。



これらの新技術を駆使して患者様にやさしく、質の高い画像を提供し、診断に貢献できるように努めていきます。

撮影透視主任

岩元 優樹

Yuki Iwamoto



第149回「公開看護セミナー」開催

6月2日



今回は、「今、改めて自分の看護師としてのキャリアを考えよう」というテーマで福岡看護大学看護学部教授の飯野英親先生にご講演いただきました。キャリアにはワーク(仕事)キャリアとライフ(人生)キャリアがあり、シーソーのようにバランスを取りながら、どちらかを犠牲にすることなく、無理のない人生設計を考えることが大事であると学びました。これからの自分のキャリアについて振り返るよい機会になりました。

手術室副看護師長

松永 智樹

Tomoki Matsunaga



「PICC 研修」開催

6月11日



当院にてPICC研修会が開催されました。上級医の先生や2年目の先輩方に指導して頂きながらエコーガイド下におけるPICC挿入の手技を詳しく教えて頂きました。公立玉名中央病院などの関連病院からも研修医の参加する、賑やかな研修会となりました。大変有意義で、今後も積極的に参加していきたいと思えます。

研修医1年次

友田 万莉

Mari Tomoda



INFORMATION

リハビリテーション科は臨床実習も行っています

リハビリ



例年通り、熊本県内の養成校の総合臨床実習を5月7日より開始しています。学内教育ではクリティカルパスについて学ぶことはほとんどなく、戸惑うことも多いため、クリニカルクラクシップを導入して安全で最良の理学療法を学んでいただいています。

理学療法士

林田 祐醍

Yudai Hayashida



平成 31 年度採用

看護部

「九州グループ看護職員就職説明会」に参加して

5月12日「九州グループ看護職員就職説明会」が福岡県のアクロス福岡で開催されました。全体で316名が参加し、当院ブースには38名の学生や既卒の方が訪れ九州圏外からの参加もありました。「この病院に就職した理由は何か」「忙しすぎて学びがついて行くのか」など多くの質問がありました。なかでもDMATについての質問が多くあり、DMAT研修や熊本地震後の災害医療についても個別に説明を行いました。今回の就職説明会に参加して、当院がたくさんの方から「働きたい」と思って頂けるように日々安心安全な医療を行っていきたくとあらためて感じました。



7階南病棟副看護師長
佐々木 圭一
Shuichi Sasaki



臨床検査科「病理」

検査科

病理とは、生体の一部から切除した組織片の顕微鏡標本を作って、その標本の中に見いだされる病変の診断を下します。病理担当の検査技師は病理医の診断の補助や、細胞レベルで形態を観察し診断を行います。また解剖助手にもつき、日々病因究明に努めています。



臨床検査技師
中島 一樹
Kazuki Nakashima



第5回「全国国立病院機構

臨床工学

臨床工学技士学術大会」参加報告



大阪医療センターで開催された「全国国立病院機構臨床工学技士学術大会」に参加してきました。今回のシンポジウムでは「病院の経営改善に対して臨床工学技士ができること」をテーマに発表があり、各施設における取り組みを学ぶいい機会になりました。来年は5月11日、12日に当院で開催します。各方面に御迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

臨床工学技士長
田代 博崇
Hirotaka Tashiro



マラニック大会に参加しました！

くきやほ

「山口 100 萩往還マラニック大会」

5月2・3・4日、「マラニック大会」に参加してきました。全長250km、13のCPを通過し、48時間以内にゴールを目指す大会です。参勤交代路として使用され風情が色濃く残る石畳がコースに組み込まれており、全身で歴史を感じることがこの大会の醍醐味です。過酷な環境に体力を奪われ、至る所が痛みだし、何度心も折れました。しかし、吉松先生や多くの方々に支えられ何とか完踏することが出来ました。残念ながら本大会をもって長い歴史に幕を閉じますが、有終の美を飾ることができ、いい思い出となりました。



左から、林さん（院長秘書）、古田さん（放射線技師）、自分（久木野放射線技師）、吉松先生（放射線科部長）

診療放射線技師
久木野 豊
Yutaka Kukino



「橘湾岸スパーマラニック2018
春のステージ大会」



▲ 左から、井上君、松川義兄、松川です
▼ 深松さんのゴールシーン



5月4・5日、「橘湾岸スパーマラニック」（長崎）に、くきやほランニングクラブから放射線科深松さん（80km）、井上君（173km）、松川（217km）で参戦しました！！長崎の激しい坂坂坂…を攻略してきました♪

循環器内科
松川 将三
Masakazu Matsukawa



5月の行事食

「世界高血圧デー」メニュー提供

栄養

5月17日、世界高血圧デーに伴い、夕食に行事食を提供しました。メニューは、ヨーグルトでコクとまろやかさを出した「タンドリーチキン」、旬のそら豆を使用した「初夏のグラッセ」、お酢を効かせ塩分を控えた「春雨サラダ」、デザートはカリウムたっぷりの「スイカ」です。減塩方法を載せたメッセージカードもひととまポイントです。



管理栄養士
山下 晶穂
Akiho Yamashita





No. 250

医学シリーズ

血液内科 (No.9)

最近のトピックス

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) と
ファビピラビル (アビガン)

血液内科

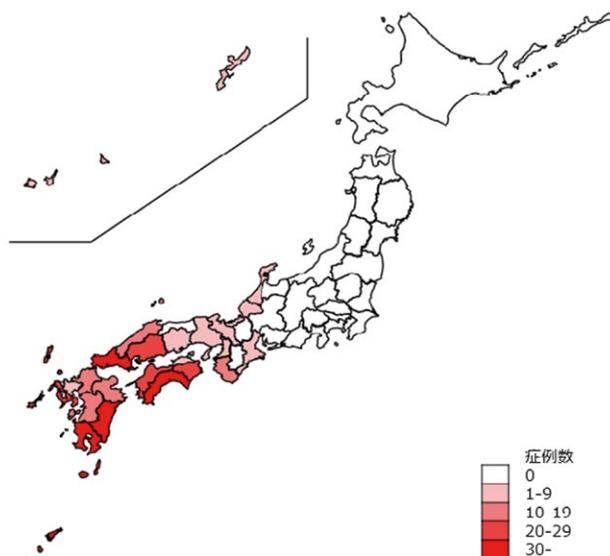
ひらの たいち
平野 太一

重症熱性血小板減少症候群 (Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS) は 2011 年に中国で初めて報告された、ダニと哺乳動物を宿主とする新興ウイルス感染症です。SFTS ウイルスはブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類され、主にマダニの刺咬によってヒトへの感染が成立します。一般に潜伏期は 1～2 週間とされ、その後に発熱・消化器症状 (嘔気・下痢) が出現し、頭痛・筋肉痛や意識障害などの神経症状がみられます。検査上は血小板減少・白血球減少に加え、AST・ALT・LDH の上昇、血清フェリチンの上昇が認められます。重症例では血球貪食症候群や多臓器不全に至り、死亡率は 10%～30%といわれております。

日本国内でも 2012 年に SFTS が確認され、現在までに 300 例以上が確認されています。発症時期はマダニの活動が活発となる 3 月～11 月に多く、本県を含む西日本からの報告が多い状況です (図)。高い死亡率が報告されておりますが、残念ながら、確立された治療薬はなく、対症療法が行われております。

ファビピラビル (アビガン) はウイルスの RNA ポリメラーゼを選択的に阻害する抗ウイルス薬で、現在本邦では他剤抵抗性のインフルエンザウイルス感染症に限定承認されております。2014 年の西アフリカでのエボラ出血熱や新型インフルエンザで脚光を浴びた抗ウイルス薬ということで記憶にある方も多いと思います。インフルエンザやエボラ出血熱を含めた他の RNA ウイルスへの効果も *in vitro* および *in vivo* で確認されており、SFTS に対しても有効性が示唆されております。当科では SFTS に対するファビピラビル (アビガン) の臨床試験 (UMIN000029020) に参加し、SFTS の診断確定例に対して、ファビピラビルの投与を行っております。

SFTS症例の届出地域 (n=324, 2018年4月25日現在)



届出都道府県	症例数
石川県	2
福井県	2
三重県	6
京都府	4
大阪府	1
兵庫県	3
和歌山県	11
島根県	10
岡山県	5
広島県	25
山口県	31
徳島県	24
香川県	5
愛媛県	25
高知県	29
福岡県	11
佐賀県	5
長崎県	22
熊本県	9
大分県	12
宮崎県	51
鹿児島県	30
沖縄県	1

(国立感染症研究所公表)

看護学生が持つ接遇の認識と本校における人間理解を軸とするカリキュラムの検証

看護学校 大野美穂、橋口清美、石井美香子

接遇は、来客を迎え、失礼のないように送り出すまでの対応であり、その過程において来客に提供する“おもてなし”の一連の態度と行為であると言われていきます。特に、人とかかわる職業においては、接遇で仕事の質を評価されることがあるため、様々な接遇の教育的取り組みが行われています。例えば、言葉遣いや敬語、挨拶、身だしなみといった、いわば形から入る基本的な知識に関するものです。ただし、基本的な知識に加え、相手の気持ちや意向を察知し気遣うというような心が伴ってこそ、相手をもてなす接遇、相手が「快」を感じることができるおもてなしとして受け取られると思います。そのためには、人を理解し、倫理観をもって人間関係を築くことができる能力を養うことが重要であると考えました。

本校の教育理念のなかに「融和」というものがあります。「融和」で目指すものは、相手の立場に立ち、相手をよく知り理解できるようになる学生です。本校のカリキュラムは人間理解を軸にしており、他者を思う接遇教育は重要な教育の一つになると考えました。そこで、学生へのインタビューで得られた結果から、学生の接遇に関する認識は本校の科目のどの部分と繋がっているか確認してみました。そして、6つの科目のなかに倫理観や人間関係形成に必要な能力を養う内容がある

ことを確認しましたが、学習した内容と実際の接遇のつながりは明確ではありませんでした。

一方で、学生は臨地実習中、看護師の挨拶場面やさりげなくベッドサイドの靴をそろえる姿、患者様への対応場面での姿勢などから、相手への気遣いや、相手が気持ち良いと感じる行為に気づいていました。そして、挨拶が対人関係をつくる基盤になると認識していました。今回、カリキュラムの検証を行い、接遇の教育は単に知識だけでなく臨地実習や普段の学校生活において、相手に関心を示す、相手の意向を察知し気遣うというモデルをみせることで接遇の教育効果が期待できるのではないかと実感しました。今後は、このことを意識しながら学生の支援に取り組みたいと思います。



共同指導の制度をご活用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様をご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様はかかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご紹介頂いた患者様をご入院されましたら、共同指導のご案内をFAXさせていただきますので、ご活用下さい。

当院へご紹介頂いた患者様の最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご活用下さい。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

研修医レポート

臨床研修医

飽田 博海



こんにちは、研修医1年目の飽田博海と申します。熊本生まれ、熊本育ちで2月に熊本大学を卒業して、4月から熊本医療センターで研修をさせて頂いています。大学時代は硬式テニス部で、今でも時間がある時に、同期や先輩と楽しくてプレーしています。現役時よりも、すでに体に脂肪が付いてきて危機感を感じております。テニスをされる方がいらっしゃいましたら、是非一緒にプレーして下さい。研修が始まって既に2カ月が経とうとしています。まだまだ慣れない診療やその他の業務も多いですが、毎日の経験が自分の糧となるように一所懸命の日々を送っています。

私の研修のスタートは循環器内科でした。(ちょう

ど循環器の最終週に原稿を書いています。)最初は電子カルテの使い方や、オーダーの仕方からわからずに、あたふたしていましたが、指導医の先生や、研修医の先輩に指導していただき、ようやく一通りこなせるようになってきました。循環器内科では、心筋梗塞に対して緊急カテーテルが入る事も多く、時間勝負の緊張感ある現場を数多く体験させて頂いています。スワングツカカテーテルを実際に行ったのは、今でも手に感触の残るような嬉しい経験でしたし、急性期の動けない状態からカテーテル治療、心リハを経て元気に帰宅または転院出来るようになるまでの経過をお手伝い出来たことは、医師としての仕事の醍醐味を感じられた瞬間でした。はたまた、心不全の増悪を繰り返し、基礎疾患も多く、入退院を繰り返しているような患者様の症状を和らげ、退院出来る状態まで治療を根気強く続けなければいけない症例もありました。急性期、慢性期治療共に経験でき、心エコーや心電図と医師に必須のスキルの勉強が出来たことを循環器内科の先生方や病棟スタッフの方々に感謝しています。

次回は外科ローテートで変わらず毎日勉強の日々ですが、一日一日を無駄にすることなく、患者様と向き合う日々を続けていこうと思っています。

臨床研修医

生田 源起



こんにちは。研修医1年目の生田源起と申します。私は今年の3月に熊本大学を卒業し、4月から熊本医療センターにて初期研修をさせて頂いております。只今研修が開始してちょうど2カ月が経ちますが、まだまだ慣れない事が多く、四苦八苦しながら毎日をごさせてもらっています。

私はローテーションが外科から始まった事もあり、手術室で1日の大半を過ごしております。次のチームも麻酔科なので、さらに手術に関連した勉強をさせて頂く予定です。手術室は外科医、麻酔科医、看護師による密な連携が求められます。手術を進める上で、互いに次に何をしようとしているのか、どのように手助

けをすれば術者が手術を進めやすいか、相手の一步先の事を読んで行動し、協力をする事で手術をより速く、ミスの少ないものへとする事ができると思います。そういった相手への細やかな思いやり・気遣いが外科研修医として助手をする上で求められる能力であり、かつそのような体験の積み重ねを通して、手術の仕方のみならず、円滑なコミュニケーションの取り方を学ぶ事ができ、実際に自身が執刀医をする立場になった時に、しかるべき態度で手術へ臨めるようになるのかと思います。

平日は手術室にて勤務をするため、救急外来での当直は週末にする事が多いです。私はまだ、上級医の先生に指示を仰ぐ事も多いですが、この1年でたくさんの患者様を診て、早く当院の歯車の一部として機能できればと思います。これからご迷惑をおかけする事も多々あると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



研修のご案内

第13回 診断と治療—最新の基礎公開講座— 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年7月7日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:新町いえむらクリニック 院長

家村昭日朗 先生

演題:「水・電解質異常」

1. 水・Na代謝異常

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長

梶原健吾

2. K代謝異常

熊本市立熊本市市民病院腎臓内科部長

宮中 敬 先生

3. Ca代謝異常

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医師

中村朋文

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第233回 月曜会(無料) (内科症例検討会) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年7月9日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

〔第1症例 難治性口内炎の1例〕

国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長

辻 隆宏

〔第2症例 線溶亢進型DICに重症細菌感染を合併して著明な血小板減少をきたし、重篤な意識障害と出血症状を主訴に来院した1例〕

国立病院機構熊本医療センター救急部

楯 直晃

2. ミニレクチャー「てんかんと運転」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長

幸崎弥之助

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第131回 総合症例検討会(無料) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年7月18日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:「急速に黄疸が進行した60代男性の進行胃癌」

(60代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

中田成紀

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長

村山寿彦

〔進行胃癌と診断された60代男性が黄疸で入院となった〕

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第194回 三木会(無料) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕 〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成30年7月19日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「妊娠糖尿病患者におけるインスリン治療必要性和産後耐糖能異常の予測は可能か?」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

西川武志

2. 「糖尿病治療の最近の話題(仮)」

医療法人あさかぜ会 さくら通りクリニック 院長

西山敏彦 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

2018
7月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)		
5日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「クレーム対応」 国立病院機構熊本医療センター企画課専門職 竹下浩史	
6日(金)		
7日(土)	15:00~17:30 第13回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「水・電解質異常」 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕 座長 新町いへむらクリニック 院長 家村昭日朗 先生 1. 水・Na代謝異常 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 梶原健吾 2. K代謝異常 熊本市立熊本市市民病院腎臓内科部長 宮中 敬 先生 3. Ca代謝異常 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医 中村朋文	
8日(日)		19:00~20:30 第233回 月曜会(内科症例検討会)(研2) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)	18:00~19:30 第111回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	
12日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「病院における防災について」 国立病院機構熊本医療センター救急医療支援 後藤達広 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
13日(金)		
14日(土)	13:00~17:00 第20回 熊本PEECコース 18:00~ PEEC関連講演会	
15日(日)	9:00~ 熊本PPSTコース	
16日(月)		
17日(火)	19:30~21:00 第55回熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「誤嚥対策 up to date」 座長 済生会熊本病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 山川美樹 先生 「経口摂取不可と診断したPEG造設患者に新たな経口摂取法を導入した症例」 カワカミ歯科診療所 川上副司 先生 「胃瘻孔からの内視鏡による胃食道逆流観察」 イオンタウン田崎総合診療クリニック 院長 城本和明 先生 「重症嚥下障害患者に対する干渉波電気刺激を用いた長期治療経験(症例報告)」 熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科部長 齊藤智子 先生	
18日(水)	19:00~20:30 第131回 総合症例検討会(CPC) 〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕	
19日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「災害医療について」 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 北田真己 14:00~15:30 第64回 市民公開講座 「子宮頸がんと、ヒトパピロマーウイルス」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 高木みか	19:00~20:45 第194回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕 〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕
20日(金)		
21日(土)		
22日(日)	10:00~12:00 第284回 熊本県滅菌消毒法講座 「洗浄について」	
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
25日(水)		
26日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「痛みに強くなろう」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 小松修治	
27日(金)		
28日(土)	9:00~16:20 第33回 ナースのための人工呼吸セミナー 〈講演1〉呼吸生理の知識と血液ガスの見方 琉球大学大学院医学研究科救急医学教授 久木田一朗 先生 〈講演2〉人工呼吸を要する各種病態とフィジカルアセスメント 久留米大学医学部医学科救急医学教授 高須 修 先生 〈講演3〉ナースが知っておかなければならない各種換気モードと特徴について 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター長 原田正公 〈講演4〉一歩すすんだ呼吸管理法 ~医療安全・感染制御・PADマネジメントの観点から~ 山口大学大学院医学系研究科救急・総合診療医学教授 鶴田良介 先生	
29日(日)	12:45~17:30 第32回 臨床薬理セミナー「医療安全への薬剤師の関与の現状、今後の展望と期待」 〔日本医師会生涯教育講座4単位認定〕〔日病薬病院薬学認定薬剤師制度2.5単位(Ⅰ-1:0.5・Ⅳ-1:2.0)〕 〈講演1〉医療安全における薬剤師への期待 国立病院機構熊本医療センター副院長/医療安全管理部長 大塚忠弘 〈講演2〉薬剤師の使命と責任 -医療安全における薬剤師の役割- 国際医療福祉大学薬学部特任教授 土屋文人 先生 〈講演3〉特定機能病院・医療安全管理部門における専従薬剤師GRMとしての活動状況と今後の課題・展望 熊本大学医学部附属病院薬剤部長補佐・医療安全支援室長/医療の質・安全管理部GRM 久保田美穂 先生 〈講演4〉非特定機能病院における医療安全管理部門における薬剤師の活動状況と薬剤師の専従配置の必要性 上尾中央総合病院情報管理部医療安全管理課長 渡邊幸子 先生	
30日(月)		
31日(火)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601